

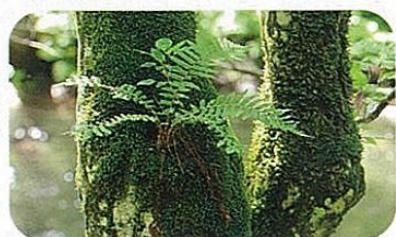
撮影時見つけた生き物



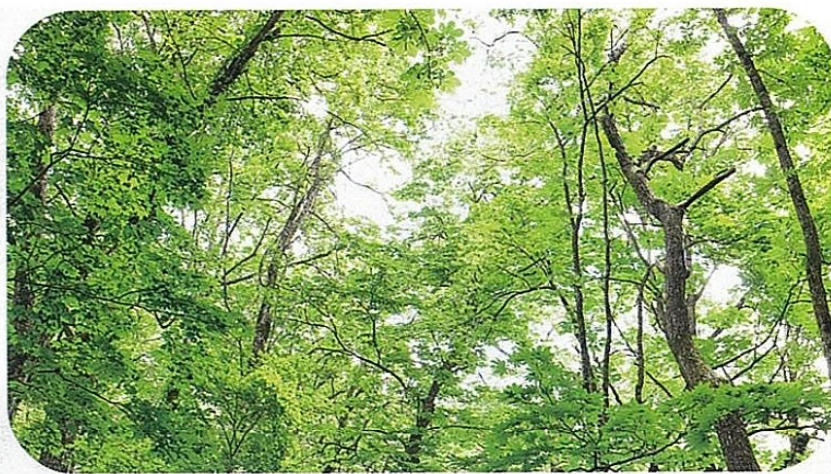
イワナ：警戒心の高い魚ですが、岸から見ることもできるかも。



カケス：声真似が得意な鳥で、人の真似をすることもあります。



シダ：地面や木の上など、奥入瀬渓流には、多種多様なシダがいたるところにはえています。



十和田市にある奥入瀬渓流は、明治末頃、原始の森を残すための取り組みが行われ、大正時代に入り、渓流を保全する制度が整備されました。

「雲井の滝」は、奥入瀬渓流にある高さ25mもある水量豊かな滝です。同じく奥入瀬渓流にある「銚子大滝」と人気を二分する人気スポットです。奥入瀬渓流にある滝の多くは、上流（十和田湖側）から見た際に左側にありますが、「雲井の滝」は右側にあり、目の前に留まるバスからも見ることができます。

滝は、支流から落ちてきており、長い年月をかけて本流の底を削りできたものです。滝が徐々に後退しているため、最上段はとても遠くにあるように見えます。



たんさく 奥入瀬渓流 雲井の滝周辺



写真は、贈呈式に参加した理事と中央左がコープあおもり 菅原理事長、中央右が（公財）日本ユニセフ協会 石尾様です。また、本部で会議を実施していた青森地域リーダー会の皆様にも参加いただきました。

コープあおもりでは、危機下にあるウクライナの子どもたちとその家族の支援を目的としたウクライナ緊急募金に3月11日～4月30日まで取り組みました。コープあおもり各店舗、宅配にて、ご協力いただいた組合員の皆様に感謝申し上げます。

寄せられた募金443万9,368円を「公益財団法人日本ユニセフ協会（以下、公財）日本ユニセフ協会」へ送金しました。6月30日（木）、コープあおもり本部で贈呈式を開催し、菅原理事長より（公財）日本ユニセフ協会の石尾様様に目録を贈呈しました。石尾様からは、募金協力に対する感謝の言葉と感謝状をいただきました。

コープあおもりでは、今後継続してウクライナ支援を目的とした募金活動を予定しています。

ウクライナ緊急募金へのご協力ありがとうございました。



ウクライナ西部ウジホロドの医療センターで、母親のハンナに抱っこされながら、ポリオの予防接種を受けるソロミヤ（1歳）。（撮影日 2022年4月21日）



ルーマニア国境のイサクチャにあるブルドットで、ユニセフスタッフと遊ぶエマ（5歳）。（撮影日：2022年4月7日）

コープあおもりをはじめとするみなさまからのお力添えにより、ウクライナでの紛争の影響を受けた子どもたちと家族は、この非常に困難な状況下において極めて重要な支援を受けることができます。しかし今日、そして今後数カ月以内に、さらなる支援が必要とされています。どうぞ引き続きのご支援を宜しくお願いいたします。

公益財団法人日本ユニセフ協会 石尾匠

例えば、ウクライナ国内でユニセフとパートナーは、紛争で被害を受けた地域の約210万人に対して保健・医療サービスを提供し、水などのネットワークが損傷または破壊された地域に住む約220万人に安全な水を届けました。また、約40万人の子どもが公式または非公式の教育にアクセスできるようにしました。さらに、難民を受け入れている周辺の国々においては、主要な移動ルート上でユニセフなどが避難している家族に支援とサービスを提供する安全な居場所「ブルドットセンター」を25カ所設置しています。（2022年5月末時点）

危機の中でも、ユニセフはウクライナ国内に留まり、子どもたちと家族のための支援活動を継続するとともに、周辺国に避難しているウクライナ難民支援も強化しています。

東部ヨーロッパに位置するウクライナでは、2022年2月から続く緊張状態、および8年にも及ぶ東部の紛争によって、750万人の子どもたちの命と生活が差し迫った脅威にさらされています。

日本ユニセフ協会から届いた
コープあおもりの皆様へのメッセージ